

令和4年度 府立丹後緑風高等学校久美浜学舎 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）実施段階

令和5年3月20日

学校経営方針 (中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
<p>「夢と人・学舎・地域・世界を結び、ものごとの本質を究め、新たな価値を創り出す」人材を育成する。</p> <p><教育目標></p> <p>1 丹後地域の自然・歴史財産を活用した新しい時代に求められる探究心の育成</p> <p>2 丹後とグローバル社会を結ぶ若者力の育成</p> <p>3 丹後地域での新しい農業と食を創造できる人材の育成</p> <p>4 福祉マインドの育成</p> <p><育てる生徒像></p> <p>■ 豊かな人間性と社会人基礎力を身に付け、自ら学ぶ生徒</p> <p>■ 丹後を愛し、丹後地域の発展に貢献しようとする生徒</p>	<p>1 成果</p> <p>(1) 「課題研究」及び「総合的な探究の時間」において、地域と連携した取組を進め、成果発表会を実施するなど、「はぐくみたい3つの力」の育成に繋がる一定の成果をあげた。</p> <p>(2) 授業規律の徹底を進め、比較的落ち着いた雰囲気の中でICT機器を活用した授業（遠隔授業を含む）改善を進め、特に低学力生徒の学力向上に繋げることができた。</p> <p>(3) アグリサイエンス科において、複数生徒が外部大会で優秀な成績を収めたり、多数の生徒が資格を取得したりするなど、生徒の知識や意欲を高めている。</p> <p>(4) 毎朝の立ち番やアンケート調査等できめ細かく生徒を見守る取組が、生徒の学校生活における安心感や重大いじめ事案の防止に繋がった。</p> <p>(5) 部活動が少人数となる中でも丁寧な指導を進めたことが、高い継続率や、各種大会での好成績、自己肯定感の向上に繋がった。</p> <p>(6) 学校HPの刷新、学校だより、アグリサイエンス科通信等により計画的に広報活動を進めた。また、PTAだよりは府高P連より好評を得た。</p> <p>(7) 保健部の指揮により新型コロナウイルス感染症感染防止対策、教育相談や特別支援の取組を組織的に進めた。</p> <p>2 課題</p> <p>(1) 各講座内の比較的学力の高い生徒に対する指導を改善し、学力を向上させる必要がある。</p> <p>(2) 3年次に至るまでに進路意識をいかに高め、準備を進めさせるかを考える必要がある。</p> <p>(3) 網野学舎との農商連携を具体的に進める必要がある。</p> <p>(4) 広報活動以外の生徒募集に繋がる取組について考え、進めていく必要がある。</p>	<p>左記の〈育てる生徒像〉の実現に向けて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>1 本学舎版「はぐくみたい3つの力（①基礎的な知識・技能 ②論理的に考え、伝える力 ③主体的に学びに向かう姿勢）」の育成</p> </div> <p>(1) 地域創生・地域貢献を軸とした「総合的な探究の時間」及び「課題研究」を充実させる。</p> <p>(2) 観点別評価を軸に、ICT機器利活用・探究的指導により授業改善を進める。</p> <p>(3) 生徒個々の課題に応じた学習指導を充実させる。</p> <p>(4) 進路意識を高まりや主体的な進路の取組に繋がるキャリア教育を計画的に実施する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>2 自己有用感の醸成</p> </div> <p>(1) 規範意識の醸成と健全な生活態度の育成を図る。</p> <p>(2) 生徒会行事や部活動、ボランティア活動、地域貢献の取組等への積極的な参加を促し、充実感や向上心に繋がる指導を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>3 学舎間連携の推進</p> </div> <p>(1) 効果的な遠隔授業の実施・研究を進める。</p> <p>(2) 学舎間の連携により教育活動を充実する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>4 広報活動の充実</p> </div> <p>(1) 生徒募集に向けた取組を全校体制で進める。</p> <p>(2) 保護者へ丁寧かつタイムリーに情報を提供する。</p>

A : 3.3~4.0 B : 2.5~3.2 C : 1.7~2.4 D : 1.0~1.6

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具体的方策	評価	成果と課題
組織運営	広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 地域や中学生とその保護者に対して、適切な時期に特色ある取組を発信し、効果的な広報活動を継続して行い、生徒募集につなげる。【学校だより：月1回の発行、HP：日々更新】 	A	<p>学校だよりのリニューアル、SNSの活用等が情報発信の充実に繋がった。HP更新を全教職員が担当し広報に対する意識も高めた。効果的な広報活動に向け、内容についてマーケティングが必要</p> <p>職員室移転が教職員間の連携改善に繋がった。電気使用量は抑えられている。1人1台端末の学習環境のさらなる整備が必要である。</p> <p>組織全体で見ると勤務時間の見直しに対する意識が高まっていない。業務の見直しやスクラップに組織的に取り組む必要がある。</p>
	安心・安全・快適な教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な安全点検により、危険箇所を早期に修繕する。 校内の整理整頓により、快適な教育環境の整備を図る。 光熱水費の節減により、学校運営費の中で効果的に活用できる予算枠を確保する。【学校評価アンケートでの教育環境満足度：70%以上】 	B	
	教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> 会議の内容を精選する。 分掌ごとに業務の見直し、スクラップに取り組む。 分掌ごとに毎月1回「はよ帰ろうデー」を実施する。【分掌での業務見直しの実施・はよ帰ろうデーの実施】 	C	
家庭・地域との連携	保護者への情報発信の充実によるPTA活動への積極的な参促進加	<ul style="list-style-type: none"> HPと「マチコミ」を有効に活用して保護者の教育活動への理解を進める。【学校評価アンケート：「学校の様子が分かる」の肯定的評価80%以上】 	A	<p>HP、メール配信サービス、SNSを活用し週2回以上の情報発信ができた。メール配信サービスへの登録者数を増やす取組が必要である。</p> <p>地域と連携した課題研究・探究活動を進め、その成果発表会「みらいのタネ」を実施。アグリサイエンス科の生産物販売会「緑風マーケット」を年間6回開催した。</p> <p>商品開発・販売に加え、ICT×地方創生甲子園で合同発表をするなど年間10回の連携を行った。</p>
	地域連携による教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 様々な教育活動（実習、探究活動、課題研究、部活動、ボランティア活動等）において、地域連携による活動を進める。【年間の取組：30回以上実施・生徒全員が1度以上参加】 	A	
	学舎間の連携による教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 農商連携をはじめ、教科、分掌での連携した取組を進める。 実践例を全体で共有する場を設定する。【教科・分掌で情報共有や連携の取組等を1回以上実施】 	A	
学習指導	授業規律の確立 「時を守り、場を清め、礼を正す」	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律と教室の整理整頓の指導を行う。 ベル着の指導を徹底し、授業時間の有効活用に努める。【「授業規律カード」による指導複数回生徒：0人】 	B	<p>全体としては落ち着いた雰囲気である。一部課題のある生徒の個別指導に苦慮する場面もあった。</p> <p>PTAや中学校教職員等向けの授業公開日や校内研究公開授業週間を設定して幅広く授業を公開し、授業改善の研鑽を積む機会とすることができた。</p> <p>授業アンケート「力の伸びの実感」が3.5となった。GTZは1年生B以上が4月2名から1月6名と増加。2年生は上昇が見られなかった。</p> <p>個別の対応・支援が必要な生徒の割合</p>
	「はぐくみたい3つの力」の向上	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器、学校図書館、新聞等の活用、探究的手法の導入等による授業改善を図る。【公開・研究授業の参観：教員一人年間2時間以上】 【「はぐくみたい3つの力」向上に関するアンケート：肯定的回答80%以上】 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々の学力に応じた指導を行うとともに、検定試験等を活用する等の学習意欲を高める方策を実行する。【各学力層におけるGTZの伸長】 【授業アンケートでの「力の伸びの実感」回答平均3.5以上（4段階評価）】 学習に課題を持つ生徒、前年度不認定科目を持つ生徒へ計 	B	

		画的にていねいな指導を行う。 【学年末で不認定科目を抱える生徒の割合10%以下】 【不認定科目の追認考査で年度内合格：100%】	B		が増加。関連専門機関等と連携して研修会を多く開催。今後も専門機関等との連携が重要である。
	各学科の特色に応じた学習活動の充実	・基礎的な専門知識や技術の習得を図る。 ・社会人講師より専門知識や幅広い考え方を学ぶ。 【関連資格取得生徒数：のべ40名以上】 【各学科各コース：年間1回以上】	A	A	両学科の特色を活かし専門機関等とも連携した新たな取組（久美浜湾博、丹後万博等）に数多くチャレンジし成果をあげた。
		・学校農業クラブ活動を活性化し、各種競技会・講習会に積極的に参加する。【各種競技会入賞：3名以上】	A		農業クラブ活動では、複数の入賞を果たした。
生徒指導	安心・安全な学校生活の実現	・生徒の困りを早期に発見・共有し、組織的に対応する。 【学校評価アンケート：「学校生活への安心度」80%以上】	A	A	「今週の振り返り」や「いじめ調査（京都府教育委員会）」で問題事象を即時に把握して対応した。朝の立ち番等での温かい生徒対応は問題行動の抑止に繋がりが、教員間の情報共有にも役立った。
	生徒の自己肯定感・自己有用感の醸成	・LHRや学校行事等を生徒が価値観を尊重しあう関係を育成する機会と捉え、生徒に寄り添いながら指導を行う。 ・学期毎にGood Card週間を行い、生徒の良い行動を認める。 ・ボランティア活動を推奨する。 【行事の満足度（自己の役割の理解）：肯定回答70%以上】 【「参加ボランティア活動の満足度」：50%以上】	A		様々な制限の中、工夫して行事を実施できたが、生徒会行事を生徒主体の取組とすることが課題。ボランティアバンク登録制度がスタートし、参加生徒が増加し、満足度も高い。全生徒が登録し、活動への参加実人数は50名、参加のべ人数149名（1日単位）
進路指導	希望進路の実現に向けた生徒一人一人の主体的取組の促進	・3年間を見据えた進路実現プラン「未来への架け橋」を画的に実行する。 ・学期毎に進路HRを実施する。（学年部・進路指導部連携） 【進路アンケート：進路意識の向上70%以上】 【各学期の計画実施率：100%】	B	B	生徒数減少で学年単位での実施が難しい取組は複数の学年合同で実施した。取組の目的や効果を見直し年間計画を再編して計画の内容充実を図る必要がある。
		・進路希望調査や面談を通じて得た情報を学年、学科、進路指導部等で共有し、目標達成のために必要な指導計画を立て実行する。（講習・模擬試験・検定試験・出願指導等） 【進路検討会議の実施：各クラス年間2回以上】	B		模擬試験や進学講習への積極的な参加が少ない。動機付けや生徒の進路検討会議を増やす必要がある。コーチング手法による独自のチューター面談を取り入れた。
健康安全指導	健康で安全な生活を営むための実践的能力の育成	・感染症予防について理解を深める。 ・保健委員会を活用した食育キャンペーンを実施する。（朝食を摂る習慣・食品成分を考えた食事を選択する力） 【保健だより、HPでの保健情報の配信：年10回以上】 【生活習慣・朝食アンケートによる食生活の改善】	A	A	保健だより15号発行、HP掲載7回。「おにぎりアクション」プロジェクトにより朝食や昼食の意識改善に取り組み、多くの生徒が協力した。保健委員会による教室の換気徹底を図った。
		・「時を守り、場を清め、礼を正す」を合言葉に、美化・掃除活動の指導を行う。 【大掃除プロジェクト：年間5回以上実施】	A	A	6回実施。掃除の質を高めるために重点箇所を決めて行い、生徒も主体的に取り組んだ。

		<ul style="list-style-type: none"> ・授業や体育行事での事故防止を図るとともに、安全教育を行い、大きな怪我や事故を防ぐ力を身に付けさせる。 ・安全点検を学期に1度実施し、施設の改善につなげる。 【実習中の事故や怪我を発生させない。】	B		<p>実習中のケガ等（1件）に速やかに対応、大きな事象には至らなかった。ケガや内科的困り感を自分の言葉で説明する力を育成することも大切である。</p>
	教育相談・特別支援の必要な生徒への組織的な指導体制構築と指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・校内での教育相談や特別支援教育を深めるために、スクールカウンセラー及び専門機関と連携する。 【教育相談や特別支援についての校内研修実施】	A		<p>教育相談事象に組織的かつ適時対応するため「教育相談方針」を改訂。特別支援教育は継続して外部の専門機関と連携し実践力を培った。（「個別の指導計画」の活用・教科担当との座談会等）</p>
人権教育	教員の人権意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員を対象にした研修など通じて、共生社会における高い人権感覚と人権意識を養う。 【教職員研修：1回実施】	B	B	<p>教職員研修は同和問題をテーマに実施し、教職員の人権意識を高めた。</p>
	生徒の人権意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSでの差別・命の大切さに関する人権学習を実施し、いじめを許さない雰囲気を作り、安心して通える学校作りをする。 【いじめ早期発見のためのアンケート：年20回以上実施】	B		<p>生徒指導部と連携して、いじめの早期発見のためのアンケートを、担任の協力を得て、毎週金曜日に実施し、情報を共有した。</p>

学校運営協議会による評価	<p>久美浜学舎の特色を活かした教育実践を展開している。また、農商連携や遠隔教育システムによる遠隔授業など、網野学舎との連携を積極的に進めている。学校評価の結果から、進路指導の充実が課題として考えられる。学校経営計画の目標に対しての達成状況を具体的に検証し、PDCAサイクルに則って改善していく必要がある。また、網野学舎と合わせて1つの学校であることを意識し、統一的な目標や取組を充実させるべきである。</p>
--------------	---

次年度に向けた改善の方向性	<p>開校から3年間の様々な取組の成果・課題から見えてきた本学舎の目指す「育てたい生徒像」を「どのように育てるのか」について全教職員が理解し、授業はもちろん、全ての取組を通して生徒を育てていく。その中では、これまで以上に外部機関や外部講師と連携した取組を進め、生徒や教員が実際に地域や社会の考えや実践に触れ、様々なことにチャレンジする経験を通して自信や新たな関心・意欲を高め、次の主体的な活動へと繋げていく。</p>
---------------	--